

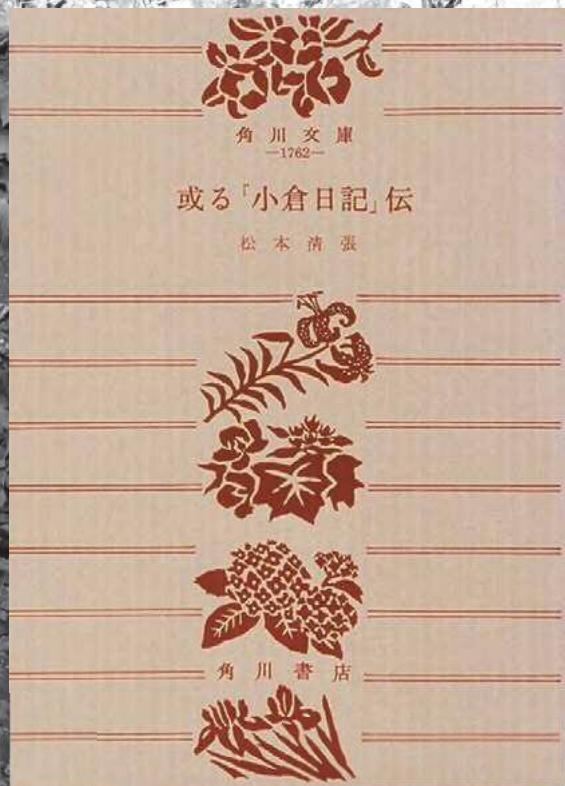
# 松本清張記念館

◆館報◆  
2016.8  
第52号

田上耕作が、

この事実を知らずに死んだのは、

不幸か幸福かわからない。



「或る『小倉日記』伝」は、昭和27(1952)年「三田文学」9月号に掲載された。

現在入手できる本  
「或る「小倉日記」伝」  
新潮文庫

『或る「小倉日記」伝』  
昭和33(1958)年  
角川文庫

**作品紹介**

昭和一五年、詩人のK・Mは、小倉市に住む田上耕作から一通の封書を受け取った。耕作は、森鷗外が明治三二年から小倉市に滞在した二年一〇ヶ月について調べており、その一部を見て欲しいと送ってきたのだった。

耕作は、体こそ不自由であつたが、頭脳は明晰で、地元の指導的文化人である白川慶一郎のもとに出入りし、資料調査の手伝いなどをしていた。ある時、鷗外の小倉時代の日記が散逸したことを知り、失われた空白を、当時流行し始めた民俗学の調査方法で「資料採集」し、埋めていくことを思い立つ。耕作は、鷗外の調査に打ち込んだ。鷗外がフランス語を学んだベルトラン神父や、朋友・玉水俊哉の未亡人、元門司新報支局長・麻生作男など、小倉時代の鷗外を知る人物に取材し、鷗外像や交友関係が明らかになっていくにつれますます情熱を燃やした。

資料が嵩を増す一方で、耕作の病状は悪化する。昭和二五年の暮、鷗外が「冬の夕立」と表現した空模様の日、ついに息を引き取った。東京で鷗外の「小倉日記」が発見されたのは翌年のことであった。

(専門学芸員 柳原暁子)

## 目次

● 松本清張研究会第34回研究発表会	2
● 松本清張研究奨励事業	5
● 特別企画展「世界文学と清張文学」	5
● 展示品紹介	5
● 点描作品の舞台を訪ねて	6
● くろずみ清張公園	7
● 友の会活動報告	7
● トピックス	8



とを、天皇制国家の上部構造の問題から迫らうとしたのが、松本清張である。

## 『象徴の設計』から読み解く 清張の天皇制観

「象徴の設計」は、清張の天皇制観の重要な面が語られているとされる作品である。物語の主筋は史料を元に構成された歴史小説の一種であるが、その中に登場する人物の会話などには、フィクションが盛り込まれていることで読者はよりリアリティを感じる。

物語は、給与削減に反対する近衛砲兵連隊兵士たちが大隈重信邸等で発砲した実際の事件である「竹橋事件」から始まる。この騒動が自由民権運動と結びつくことを恐れた山県有朋は、軍人たちが拠り所とする「精神的な象徴」が無いことが問題の本質であると認識した。そこで有朋は「軍隊の信仰を天皇に置く」ことを思いつき、「天皇の人格を神にまで形成させる」ことを考えた。西周の起草による当初の「軍人勅諭」は理性的で哲学的であったため、それを有朋らが「莊重な字句」と「天皇の口移し的な言葉」とを織り交ぜた文言、すなわち神社の「神主の祭文」と酷似したような文体へと改めていったのである。この完成した「軍人勅諭」により、「軍隊は天皇に直結し、(略)殉死的な忠義」を強制することができるようになった。これが「統帥権の発生」である。ここで清張は「しかし、有朋は、無意識に一つの作業を成し遂げたのだ。軍隊が天皇に直接従属することは、天皇を抱えこんでいる藩閥政府官僚に軍隊を密着させることであった」(傍点・引用者)と記述し

ている。ここで注目すべきは「無意識に」というところである。

天皇が神格化された存在になったとしても、その天皇を操るのは藩閥政府、つまり山県有朋であるという構造が語られているが、有朋自身もそのことをはつきりと自覚していないかたではないかという表現である。これは足軽出身である有朋らの、自分たちが天皇を「ここまで押し上げたと思っていた」が、一方で「その幼冲の天皇を押し上げた先輩はもとより、それを引き継いだ彼自身をはじめ、すべての人間が天皇を持つことによって今日まで及んでいた」、「誰もが天皇に感謝しなければならないのだ」といった意識を、清張が描いたものである。ある意味で、有朋らは明治維新を起した自分たちの天皇への気持ちを、兵や国民にも押し付けたとも言える。支配者側にとって戦前の天皇制は絶妙な作品であったが、それがすべて明確な意図によつて設計された構築物であつたとは言い切れず、まさに無意識的につくり出された部分もあるのだと清張は考へていたのではないか。この「軍人勅諭」を元に「教育勅語」、さらには「大日本帝国憲法」が制定された過程が、『象徴の設計』で語られている。一般的に、天皇は戦後の日本国憲法によって「象徴」になつたのであって、戦前の大日本帝国憲法では「主権者」であつたとかに天皇は主権者であり支配者であつたといふ見解がある。しかし、戦前において確かに天皇は主権者ではなく、「制限君主」と捉える考え方である。これら元勅が解釈したように、天皇をあくまで「制限君主」と捉える考え方である。これら両者の微妙なバランスで運営されていたのが明治以降の天皇制であった。しかし、昭和に入つてからはその「微妙な運営的調和」が崩れ、「顯教」的な面が肥大化していくようになる。

要するに、戦前の天皇制は藩閥政府による作為的な構築物であり、「現人神」信仰はまやかしであるというのが清張の認識で

あった。

このように『象徴の設計』は、戦前の天皇制が人為的に作られたものであつたことを、わかりやすく語った小説であるが、なぜ国民がその象徴物を素直に受け入れたのかという問題では、清張も追究していない。ただし、この辺りについては、イタリアのマルクス主義思想家であるグラムシが述べたよだな、国家の支配に対し治められる側も能動的に合意するという働きや、戦後に思想史家である神島二郎や後藤総一郎らが述べたよだな、土俗的民俗的信仰がそのまま天皇信仰につながっていく仕組みを考えてみると、清張による考察を経ずともほぼ明らかである。

ここで興味深いのは『昭和史発掘』の二・二六事件に関する叙述の中で、青年将校らの反乱とは直接関係が無い、宮中の女官が新興宗教に接近した話も語られていることがある。この前皇后職の女官長であつた島津ハルという人物にまで筆が及んだ理由について、清張は「とにかく島津ハル事件のようなのが宮廷の周辺に起るのも、それだけ古代王朝のシャーマニズム的宗教の名残が揺曳していたからにはかならない」と述べている。これはおそらく清張が『昭和史発掘』で天皇制に関わる事件を追つていくうちに、『象徴の設計』の分析では捉えきれなかつた、天皇制の孕む闇の部分、実はそれが新興宗教とも関わりのある問題だと気が付き、そのテーマを後に未完の大作『神々の乱心』で語ろうとしたのではないいかと考えられる。

つまり清張は、天皇制と新興宗教とは同質なものがあると捉えており、「神々の乱心」という、宮中と新興宗教とを結びつけられるような小説を書くことで、それを表現したかったのではないか。

このような捉え方は清張だけでなく、高木宏夫、佐木秋夫、井上順孝といった宗教学者らにも認められる。いずれも戦前の天

皇制と新興宗教について、「現人神信仰」と「生き神信仰」との類似点、生成時期が幕末から明治にかけてある点、そのカリスマ性や構造等といった面から共通性を指摘している。

清張は1978年時点において、「これは将来のばあいをいう憶測だが、憲法第九条の副文の解釈が拡大されるような事態となつたとき、第一条に規定された天皇の儀礼的な国事行為が、儀礼的でなくなり、第九条の副文と合流するのではないか」という遠い空を望んでの杞憂もおこらないではない」と雑誌に寄稿している。これは昨今の日本の状況を見通していたかのようを感じられ、驚愕させられる。

## 超国家主義の捉え方

『昭和史発掘』連載中の1970年、三島由紀夫らによる自衛隊基地乱入事件が起つたが、その際に三島たちが撒いた檄文の文章について、清張は「二・二六事件関係の文書との相似が映つてしかたがない」と述べている。

清張は『昭和史発掘』で二・二六事件その事件については充分に書き尽くしたが、この事件で実際には蚊帳の外におかれていたにもかかわらず、思想的首謀者として軍部に逮捕・処刑された革命家の北一輝については、まだ書き足らなかつたのであろう。のちに『北一輝論』としてまとめている。しかし、この『北一輝論』は、北が左翼から出発し、国家主義に転じていったとする清張の認識に、誤りがあるという批判を複数の北一輝にとつては当初から「純正社会主義」が「生き神信仰」との類似点、生成時期が幕末から明治にかけてある点、そのカリスマ性や構造等といった面から共通性を指摘している。

研究家から受けている。

「義」が「国家主義」と接合・融合しているのであって、「純正社会主義」から後に「国家主義」に変容したのではない。このことは北が23歳の時に著した『國体論及び純正社会主義』からも読み解ける。やはりこれに関しても、清張は間違えていると言わざるを得ないだろう。

清張が北一輝神話を解体し尽くそうとするあまり、どうしても成心の強い解釈になつたのだろうが、清張の論にも無視できないものがある。北がなぜそこまで天皇に拘るのかという問題である。北研究家である清水元が指摘しているとおり、北には幕末の勤皇志士と同じく、「天皇という「玉」に縛り付けられている」ところがある。この問題をこそ、清張は追究せねばならないのではなかろう。

北と同じく思想家の大川周明についても、清張は『昭和史発掘』等の複数の作品で書いている。大川は、インド哲学を学んだ後に歴代天皇の伝記編纂に携わる中で、日本的なものに目覚めた思想家であり、自身の著書『安樂の門』でもそれを述べている。これを清張は「彼の革命観は、アジアと日本的思想を混合し、精神主義を強調した結果、神がかり的となつた」(傍点・引用者)と述べた。

しかし、大川の思想を「アジアと日本の思想」の「混合」で「神がかり的」と言いつけることには慎重であるべきと考える。大川研究家が指摘するように、大川のアジアの視点には岡倉天心の影響も認められ、大川のイスラム研究については目を見張るものがある。

大川は『日本二千六百年史』の中で日露戦争の悲惨さを表現したが、これを蓑田胸の新聞掲載情報や翻訳作品、映像作品等を

喜ら右翼思想家たちは不敬、非日本的だと批判している。むしろ「神がかり的」で狂信的だったのは、大川を批判する側の者たちだつたと言える。

このように見てくると、清張には、超國家主義者の宗教心というものを掬い取って、清張は間違えていると言わざるを得ないだろう。このように見えてくると、清張には、超国家主義からも読み解ける。やはりこれに関しても、清張は間違えていると言わざるを得ないだろう。

清張が北一輝神話を解体し尽くそうとするあまり、どうしても成心の強い解釈になつたのだろうが、清張の論にも無視できないものがある。北がなぜそこまで天皇に拘るのかという問題である。北研究家である清水元が指摘しているとおり、北には幕末の勤皇志士と同じく、「天皇という「玉」に縛り付けられている」ところがある。この問題をこそ、清張は追究せねばならないのではなかろう。

北と同じく思想家の大川周明についても、清張は『昭和史発掘』等の複数の作品で書いている。大川は、インド哲学を学んだ後に歴代天皇の伝記編纂に携わる中で、日本的なものに目覚めた思想家であり、自身の著書『安樂の門』でもそれを述べている。これを清張は「彼の革命観は、アジアと日本

思想を混合し、精神主義を強調した結果、神がかり的となつた」(傍点・引用者)と述べた。

## 研究発表

### イタリアにおける松本清張 —レオナルド・シヤーシャとの相似性—

講師 吉村 法子

立命館大学大学院博士課程



#### 要旨

戦前の天皇制も超国家主義思想も、宗教的な要素を色濃く持っている。松本清張は、戦前の天皇制と新興宗教の共通点を鋭く分析したように、超国家主義思想についても、その宗教的因素を正面に据えて分析するべきだつたと考へる。

しかしこれは、超国家主義を唾棄すべき存在であると考へた清張が後世に残した宿題であり、それを解き明かさねばならないのは、むしろ21世紀を生きる我々のかも知れない。

## まとめ

戦前の天皇制も超国家主義思想も、宗教的な要素を色濃く持っている。松本清張は、戦前の天皇制と新興宗教の共通点を鋭く分析したように、超国家主義思想についても、その宗教的因素を正面に据えて分析するべきだつたと考へる。

しかしこれは、超国家主義を唾棄すべき存在であると考へた清張が後世に残した宿題であり、それを解き明かさねばならないのは、むしろ21世紀を生きる我々のかも知れない。



## 松本清張研究奨励事業 入選企画決定

「松本清張研究奨励事業」は18回目を迎ましたが、多様なアプローチの応募企画が寄せられました。選考委員会による厳正な審査の結果、次のとおり入選者が決まりました。

第一線で活躍される入選者も増え、成果の蓄積が清張研究をさらに発展させています。今回の入選企画も、松本清張の活動の幅広さを示し、成果が期待されます。

**企画名** 松本清張の政治思想  
—言論界、大学、歴史記述

**入選者** 倉科 岳志（京都産業大学准教授）

**企画名** 松本清張と森浩一  
—定説への挑戦と古代史ブームの牽引

**入選者** 深萱 真穂（フリーライター）



## 松本清張研究 奨励事業募集

### 募集要項

- |      |  |
|------|--|
| 対 象  | ① 松本清張の作品や人物を研究する活動<br>② 松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動（調査、研究等）<br>※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。<br>ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限ります。個人又は団体も可。 |
| 内 容  | 入選者（団体）に120万円を上限とする研究奨励金を支給します。  |
| 応募方法 | 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的に分かる企画書、予算書、参考資料（様式は自由、ただし日本語）を、平成29年3月31日までに応募してください。   |

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

**特別企画展**

# 世界文学と清張文学

おかげ様でご好評をいただいている  
会期延長  
**8月31日(水)**  
まで開催

**会場** 記念館地階「企画展示室」

**入場料** 一般500円、中高生300円、小学生200円 ※常設展示観覧料に含む

**『霧の旗』の翻訳者、来場**

『霧の旗』を英訳出版されたアンドリュー・クレア氏が  
ご来場くださいました!

**研究者からの反響**

ボー研究者からは「これほどまでは思わなかった」との声が寄せられました。今後は、日本におけるボーの受容史に、清張が大きく浮かび上がってくるでしょう。

シェイクスピア研究者からも「記念館には何度か来たが、今回の企画展は内容が本当に素晴らしかった。清張作品には英文学の影響を感じることがあったが、この企画展でそれが確信できた」と言われました。その方によると、シェイクスピアは不明な点が多い作家ですが、清張の描いたイラストは、かなり正確なものを元にして描かれているのだそうです。このようなことは、専門家でなければわからない貴重なご指摘でした。

**来場者の声**  
※アンケートより

『世界文学と清張文学』  
取材力、企画力に脱帽しました。すばらしいです!  
千葉県 40代 男性

海外で読まれていることを初めて知りました。清張先生のイラストもとても味があり、感動しました。  
北九州市 40代 男性

**清張自身によるイラスト**



## くろずみ清張公園

今年3月末に、北九州市小倉北区黒住町にある公園の名称が、「黒住公園」から「くろずみ清張公園」に変わりました。これは、地元住民団体が北九州市に公園の名称変更を要望して実現したものであります。

黒住町は、清張が戦争から復員した昭和20年から上京するまでの約8年間住んでいた町です。当時は、小倉市黒原営団という名称でした。この時期に、清張は朝日新聞西部本社に勤務する傍ら、デビュー作の「西郷札」や芥川賞を受賞した「或る『小倉日記』伝」などを執筆しています。また、当時長女が在学していた足立中学校の校歌の作詞もしています。

公園の面積は約3,200平方メートル、住宅街にある街区公園です。清張の名とともに、いつまでも地元で親しまれ愛され続ける公園になることと思います。



## 友の会 活動報告

### ●朗読劇「蒼い描点」

5月28日(土) 参加者147名

記念館 屋外特設スタンド

劇団前進座による朗読劇は、今回で13回目となりました。年々人気が上がっており、友の会の春の事業として定着しています。今年も特設スタンドは参加者で一杯となりました。上演作品の「蒼い描点」は、箱根の温泉を舞台とした長編推理小説です。小倉城の石垣をバックに、日暮れとともに物語が進み、照明や音響が迫真的演技を引き立てます。初めて参加された方々からも、素晴らしかった、次回も参加したいといった声が寄せられました。

### ●清張サロン

清張サロンは、清張作品や清張に関する話題をテーマとして、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流等を目的として開催しています。第7回と第8回は、記念館との共催として、友の会会員のほか一般市民の参加も募りました。いずれの回も講師の方々に分かりやすく掘り下げて解説していただき、とても充実したサロンとなりました。



第5回 3月24日(木) 参加者 26名 記念館 会議室

- テーマ : 清張作品に登場する郷土の偉人  
—伊藤常足(『太宰管内誌』)と  
高崎節子のはなし—
- 講 師 : 水口一志氏(遠賀町文化財保護委員)  
柳原暁子氏(記念館・専門学芸員)

第6回 4月22日(金) 参加者 23名 記念館 会議室

- テーマ : 松本清張と筑豊
- 講 師 : 中川里志氏(記念館・学芸担当主査)

第7回 6月18日(土) 参加者 43名 記念館 地階ホール

- テーマ : 小説「風紋」に読む清張自身の投影
- 講 師 : 大津忠彦氏(筑紫女学園大学教授)

第8回 7月9日(土) 参加者 65名 記念館 地階ホール

- テーマ : 松本清張『古代史疑』と新邪馬台国論  
—筑紫王国による畿内邪馬台国の建都と印章の世界—
- 講 師 : 久米雅雄氏(大阪芸術大学客員教授)

### ●文学散歩「伊豆・天城越えと世界遺産を巡る旅」

5月15日(日)~16日(月) 参加者30名

1日目 静岡駅→三保の松原→韭山反射炉→井上靖文学館

2日目 旧天城トンネル→伊豆近代文学博物館→淨蓮の滝→三島大社

今回は、数々の清張作品の舞台として登場する伊豆方面への文学散歩を実施しました。最初の目的地、三保の松原は、羽衣伝説とともに小説「Dの複合」に登場します。次に向かった韭山反射炉は清張も訪れたことがあり、その時の感想を「あの時代、こういうものが出来たのは、たしかに驚異である」と記しています。井上靖文学館では、井上靖と清張との共通点等を学芸員の方に解説していただきました。二日目は、「天城越え」に登場する旧天城トンネルを見学しました。旧道はバスが通れないため、駐車場から往復1時間以上歩きました。時間をかけた分、トンネルを見たときの感動が増したようでした。今回も、参加された皆様から「楽しい旅行ができた」「資料を見て清張さんの本を読みたくなった」などの声が寄せられました。



### ●友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集●

松本清張記念館友の会は8月1日~翌年7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、「友の会だより」の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。

年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしています。

友の会入会のお申し込みは、  
松本清張記念館友の会事務局まで

**TEL. 093-582-2761**



平成28年度  
中学生・高校生

# 読書感想文コンクール

清張作品の読書感想文を、中学生・高校生を対象に募集します。

若年層に、より多くの作品に親しんで欲しい、表現力を学び豊かな心を身に付けてもらいたいという願いから、このコンクールは始まりました。そして、これからを担う若者たちに、探求の人・松本清張の精神を伝えていくことができれば幸いです。

**応募対象** 全国の中学生・高校生

**課題図書** 中学生・高校生ともに下記から1作品

### 「或る『小倉日記』伝」

(『或る「小倉日記」伝』新潮文庫、『西郷札』光文社文庫、『松本清張傑作短篇コレクション』(上)文春文庫)、「顔」(『張込み』新潮文庫、『声』光文社文庫)

### 「点と線」

(『長編ミステリー傑作選 点と線』文春文庫、『点と線』新潮文庫)

### 「高校殺人事件」

(『高校殺人事件』光文社文庫)

**応募方法**

○中学生、高校生ともに1,200～2,000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし、全体の字数が分かるように応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお、応募原稿はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおどりください。

**応募締切** 平成28年10月31日(月) ※当日消印有効

**応募先** 〒803-0813 福岡県北九州市小倉北区城内2番3号  
松本清張記念館 感想文コンクール係

※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

**選考** 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

**発表**

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、12月下旬頃、本人と学校に通知し表彰式を行います。

なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表します。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

**賞品** (受賞人数等、変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1人)

《モンブラン》万年筆「マイスター・シュテュックNo.149」

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人) 文具など(未定)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人) 図書カード その他

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各一回ずつの受賞とさせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。過去の受賞者からの応募作品が賞に該当する場合は<特別賞>として「館報」掲載を予定しています。

●協力 モンブランジャパン



## 記念館からのお知らせ

平成28年3月31日付けで藤井康栄館長が退任し、同年4月1日付けで名誉館長に就任いたしました。それに伴い、館長代行に丸田圭一が就任しております。

また、当館に関する助言・指導を行う市顧問が新設され、小野昭治が就任しております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

●編集後記● 6月4日松本清張研究会での吉村法子さん

の研究発表は、とても興味深い内容でした。イタリアの小説家レオナルド・シャーシャと松本清張は、奇しくも同じ1950年に作家デビューし、社会背景や社会構造に関心をもち、ノンフィクション分野にも進出していったそうです。遠いイタリアと日本で同じような道をたどった二人の作家に、思いを馳せたひとときでした。

記念館周辺の緑もよりいっそう深くなり、清張没後24回目の夏を迎えました。8月6日の開館18周年記念講演会には、ノンフィクション作家の保阪正康さんをお招きしています。講演のテーマは、『近・現代史と清張史観』です。講演の内容につきましては、次号で詳しくお知らせいたします。お楽しみに。(K.H.)



編集・発行

## 松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般／500円(400円) 中・高生／300円(240円)  
小学生／200円(160円) ( )は30人以上の団体
- アクセス JR: 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分  
小倉駅からはバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)  
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

